

（2）発震機構（注2）

今回の地震の震央周辺（領域b）の発震機構の分布をみると、概ね北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型又は横ずれ断層型の地震が多く発生している（図2）。今回の地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

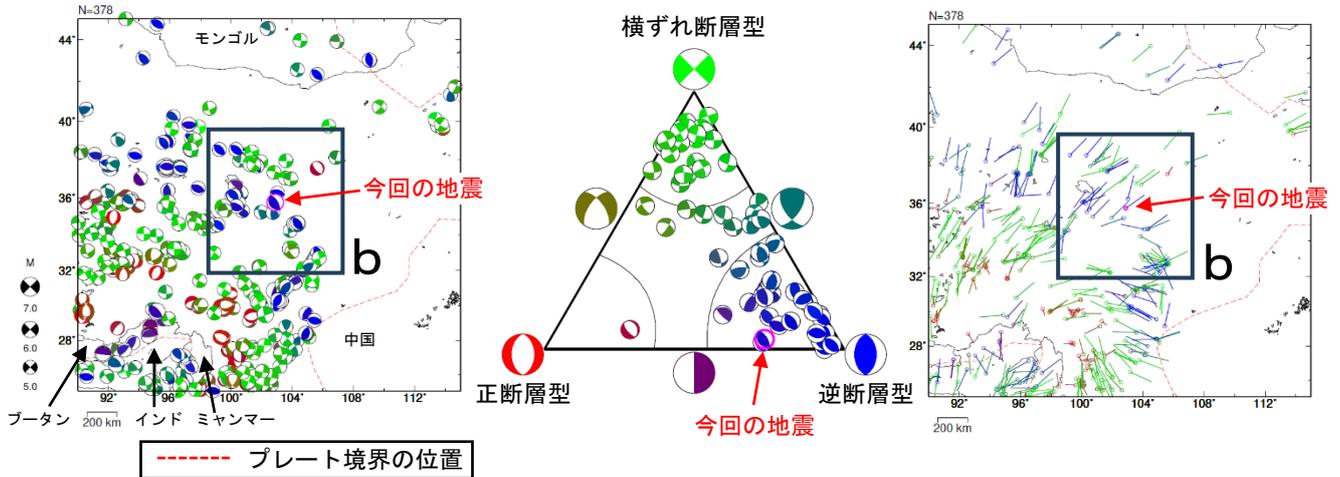


図2 発震機構分布図（左）、領域b内の発震機構の型の分布（中）及び発震機構の圧力軸の向きの分布（右）
（1980年1月1日～2023年12月31日、深さ0～100km、M≥5.0）
逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich（2001）による分類）。

（3）過去に発生した主な地震（注3）

1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M7.0以上の地震が時々発生しており、大きな被害を伴っている。1920年12月16日にはM7.9の地震が発生し、死者235,502人などの被害が生じた。今回の地震の震央から南に約500km離れたところでは、2008年5月12日にMw7.9の地震が発生し、死者69,195人などの被害が生じた。

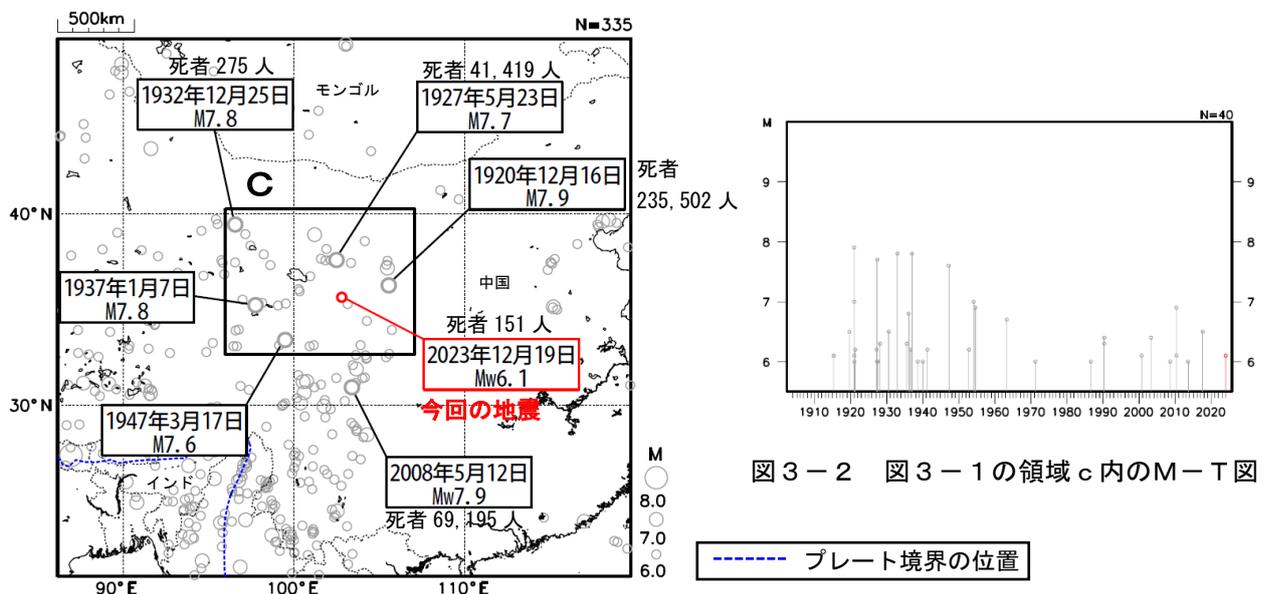


図3-1 震央分布図（1904年1月1日～2023年12月31日、深さ0～100km、M≥6.0）
2023年12月の地震を赤色で表示
領域c内のM7.5以上の地震、2008年5月12日の地震及び今回の地震に吹き出しを付加

（注2）震源要素及び発震機構は、今回の地震は気象庁、その他の地震はGlobal CMTによる。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置はBird（2003）*1より引用。

（注3）震源要素は、2019年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 10（1904-2019）、2020年以降は米国地質調査所（USGS）による（2024年1月4日現在）。ただし、吹き出しのある地震のMwは、2008年5月12日はGlobal CMT、2015年4月25日の地震及び今回の地震は気象庁による。被害は、今回の地震はOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所、2024年1月8日現在）、その他の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置はBird（2003）*1より引用。

*1参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.